

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第5回郷育推進会議	
開催日時	令和6年1月17日（水） 18:30～20:00	
開催場所	市役所本館 庁議室	
委員名	(1) 出席委員 木本会長、伊藤副会長、原尻委員、東委員、柳田委員、濱田真委員、山口委員、宇都宮委員、井上委員、濱田遼委員 (2) 欠席委員	
所管課職員職氏名	郷育推進課長 谷口 篤 郷育推進課郷育係長 坂本 剛章 郷育推進課スポーツ文化振興係 落谷 拓人	
会 議	議 題 (内 容)	<input type="checkbox"/> 福岡ブロック社会教育委員研修会の報告書について <input type="checkbox"/> 福津市生涯学習推進計画について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	1人
	資料の名称	<input type="checkbox"/> 令和5年度福岡ブロック社会教育委員研修会報告書 <input type="checkbox"/> 福津市教育総合計画 <input type="checkbox"/> 福津市生涯学習推進計画
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	記録内容の確認方法：会長による確認	
その他の必要事項		

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

事務局挨拶

1. 開会のことば

2. 協議事項

○福岡ブロック社会教育委員研修会の報告書について

●会長

研修会の報告とアンケート結果をまとめている。

アンケート結果から非常に良い研修になったと思う。

福岡ブロックの拡大実行委員会が1月30日にあるので、福津市として研修の報告を行ってくる。

○生涯学習推進計画について

●会長

前回の郷育推進会議でお話ししたが、生涯学習の推進計画が、中間見直しの時期に来ている。

最初に、教育総合計画の冊子の9ページの教育大綱と教育総合計画という仕組みの図の説明を行いたいと思う。

現場のいろいろな政策というものを進めていくためには、その政策を裏打ちする計画があり、その計画を進めていくという流れになる。いろいろな国の政策もだが、ただ思い立ったからやるとかいうことは決してできず、皆さんの合意のもとにいろいろ検討したもので、その計画を立ててその計画に沿って進めていく。

そして、途中でその見直しをしながら、現状に合うものにアップデートしていくことが大事なところになっていく。

福津市まちづくり基本構想の上の教育大綱が一番上にあり、これに基づいて、その下にある教育委員会の継続の教育総合計画、さらに下にスポーツ推進計画と生涯学習推進計画と学校教育ドリームプランがある。

この生涯学習推進計画が郷育推進会議で話し合うところになっている。

ただ、教育大綱が更新されていないので全体が動けない状態である。私達は生涯学習、社会教育の現状の洗い出しや確認をすることで、実際に変えていきたいと思います。すぐに動ける状態にしておくことが大事。

なので、皆さんがそれぞれ関わっている現場のお話を聞きながら、今の生涯学習の現状を今回と次回で話し合っていきたい。

『生涯学習の推進計画策定にあたって』の14ページの施策展開のところから、22ページの計画の体系のところまでを、皆さんと中身を確認しながら、ご意見を伺っていきたいと思う。

その際に、三つの視点を基本で考えたいと思う。

一つ目は、この現行の計画を読み込んだ上で継続すべき政策か。

二つ目は、課題がある政策か。

三つ目は、新しい方向性の政策を含め、盛り込んだらいいと思うものがあるか。

例えば、二つ目の課題がある政策というところの中で、この生涯学習推進計画の中には、「教育の循環」という言葉を使っていたりするが、これを一般の方が見て、言葉の意味が分かるのか。私達は仕組みや流れが分かっているけど、市民のかたが分からないといけない。そういう表現の部分、これも課題の一つとして今回は考えてみたい。

また、継続するものに関しても全く現行のまま進むという意味の継続もありだと思うが、一部アップデートをして継続もあると思う。

●委員

それぞれの団体がうまく歯車が合っていないと感じる。生涯学習を進めていく方向性としては、福津市という特性を生かすことが大事な気がする。それは、「歴史」になると考えている。

今でもいろいろな資料を見る機会はあるが、古墳祭など計画されているが、その周辺の塊しか動いていない気がする。もっと市民全体に浸透していくように全体で動いていく必要がある。

●会長

この計画を策定した段階で「繋がり」という言葉は結構キーワードになっていた。

読んでいただければ分かるが、「コーディネーター」という言葉が度々出てくる。このコーディネーターは、今の「地域コーディネーター」とは違い、一般論としての「コーディネーター」繋げる人という意味になる。そういうところを一つ取ってみても、5年経てば現状が違う。

見直しをしていく上で、その地域コーディネーターをどう活躍させていくかの視点が、この中に盛り込まれてもいいと思う。

「繋がり」を意識して見直しを進めていくといいと思う。

●委員

「地域コーディネーター」など、現在の表現に変えていく必要がある。16ページの(2)の③の「ふくつ市ボランティアセンター」も今は「きっかけラボ」に変わり、活発に活動し、地域の方々を繋ぐ役割を果たしている。

小学校、中学校のコーディネーターとそれぞれの活動団体に繋げる役割を担うコーディネーターも区別が難しいので、繋ぎ役など言葉を変えてみるのもいいかもしれない。

●会長

「ふくつ市ボランティアセンター」は名前が変わって「未来共創センター」という名前になっている。そこで活動している団体が「きっかけラボ」とも呼ばれているが、場所の名前は「未来共創センター」になっているので変えなければいけない。

●委員

地域によって若い人が多い地域やお年寄りの多い地域があり、いろいろな人たちがさまざまなものを利用しやすくなれば。

例えば、コミュニティバスは、どこに停車するかアナウンスがなかったり、親切ではなかったりする。小さいことではあるが、小さいところから変えていかなければ、本当に現状生活している人は、困るのでは。

市公式 SNS を登録していれば情報が入ってくるが、登録できない人などは情報が入らない。身近なところで何が行われていて何をやる場所なのか、もっと分かりやすくなれば、繋がりができていくと思う。

先ほど話した、コミュニティバスは、その場所と場所を繋ぐものであり、そこが不親切であることはよくないと思う。

●会長

バス自体は、この会議でどうにかできるわけではないが、自分たちで歩くのが難しい高齢者には特に大事なことだと思う。

バスのことも含めてだが、必要な場所に情報を繋ぐことは大事。別の部署のことが他の部署の人には情報が入らないなど、うまくかみ合っていないという印象は否めない。

●副会長

施策というのは何をやるかという作戦で、だけどそれはその施策を打つ前にどんな目的があるかという目的があって、そして施策を立てたらそれをどのように実行するかという戦術を立てる。

施策にはどれもいるよねというものを書いてあり、全体を網羅しているから削りようがない。今も十分入っているともいえる。

だから、私達が気にしないといけないのは、施策そのものというより、施策の実行方法を考えるべき。

この新型コロナウイルス感染症を経験して、課題も目的も若干変わってくる可能性がある、また、状況が変わればやり方も変わるはず。そここのところが中心になるというのを改めて思う。

例えばコーディネーターさんの名前とか、施設の名前とかが変わっているので、どのようにするかとか、広報戦略も含めて、どのように市民の皆さんにお伝えするかという、施策の実行方法、つまり戦略的なところを変えていくのがとても重要。

特に一番弱いのは広報戦略。

企業は広報戦略にもものすごくお金やパワーをかける。分かってもらえないと商品を買ってもらえないから。だけど、自治体は、施策を打つがその必要性和実行方法の広報戦略はやはり得意ではない。これは福津市を名指しで批判するわけではなくて、もう国の省庁を含めて全自治体。

分かりにくい表現や、現状がどうなのか、これはどんなふう利用するのか、そういうところをはっきりしていけないと、繋ぎようがない。だから、私達も以前議論した、福津市にはどんな社会教育団体があるのか、そこからやらなければならない。そして、学校では児童生徒数が激増しており、そういう実態を踏まえて、どう社会教育と繋ぐかを考えていける。

ただ、目的、理念に近いようなところは教育大綱と教育総合計画ができていないので、今はここでは決められないので、戦術的なところ、施策、実行方法、今後整えていくとしたら、こういったところを目指してほしいというリクエストという形で整理しておくのが現状できる精一杯と思っている。

●会長

5年前とは状況が変わっていると思う。特に新型コロナウイルスで、国や世界も変わった部分もあると思う。

●委員

学校教育からの視点になるが、今は国が出した教育振興基本計画の示された内容から学校もどう変わっていかねばいけないかということ、模索している最中。

その中で一番変わらなければいけないと思っているのが、子どもには勉強をして物を覚えてもらうという学習、その学びの考え方。

教えて学ぶのではなくて、自分で掴み取っていく。そのために何が必要で、自分は何をしていきたいかを考える子どもを育てなければいけないと考えている。

教え方や学校の教育活動だけを変えればよいという訳ではなく、一番大事なのはその考え方が、保護者、地域、お年寄りも含めて全ての大人たちが、子どもたちは覚えて終わりじゃないことを知ってもらうことが大事。そういった所の広報が学校は上手にできてない。そこが一番の課題。

福津市は、福間中のトークフォークダンスや、津屋崎中のまわし読み新聞など、他の地域にはないクリエイティブで新しい学びの場がたくさんある。ここに全市民が参加すれば劇的に変わる気がするので、そういったものが進められるような計画であってほしいし、そういう政策が盛り込まれた計画になっていけばいいなと思う。この計画でこんな事をしているというのは上手く伝えることが出来ればいいと思う。

●会長

社会教育や生涯学習で言えば、学校がやはり中心にならなければいけないのではないかなと思う。学校に学びがあり、そこに地域の人や保護者が来て、そこで子どもと一緒に何か考え学んでいくのかなと考えます。

●委員

今学校に通っている子どもの保護者や、卒業、入学予定の子どもの保護者や子どもがいないが先に学校を見たい人。それに地域の高齢の方々や企業の人などが集まってくれるような、エデュケーションセンターやラーニングセンターみたいなものが学校として担えたらいいと思う。勝浦小学校は若干そういう傾向に既になっている。逆に福間南小学校とかは、それが非常に難しい状況にあるのは事実なので、一概にはできないかもしれないが、郷づくり交流センターと一緒にできることはないかなと思う。

●会長

福間中学校も今の新しい校舎を作る計画の段階では、地域ルームというのができて地域の方がどなたでも来て、そこで活動してもらう予定だった。でも、教室が足りなくなったため、なくなった。図書室も一般開放しようという話もあった。

福津市の教育委員会の行政の方も、先生方も方向性としては地域と一緒に学びの場を作っていこうと思っている。具体的なことは、私たち自身ではどうしようもないが、目的や意思を持ち続けることはしていかないとはいけない。

●委員

施策についてはあまり変える必要はないのかなと思う。皆さんが言っていたことになるが繋げるっていうのがすごく大事。

広報戦略が弱いとも感じる。はじめの一步を踏み出すハードルが高いので、こういう考えで、目的がこうで、こういう手段をとっていることが、一般の人にも伝わるように一言ずつ言った方が、アピールになると思った。

子どもの教育のサポートの仕方が分からない。保護者は自分たちが受けてきた教育しか知らないの、今の子どもたちにどう教えていけばいいのか分からない。これからどうしていくのか何を指針にしていくのかを考えないといけないと思った。

●委員

婦人会と学校との繋がりは、4年生の授業でアイマスクの体験をするから手伝ってほしいとの依頼があり、12月は神興東小、1月は上西郷小学校、そして今度の2月は福間南小に行くことぐらい。

でも、子どもたちとの触れ合いの中で今後変わることができたらいいかなと思う。それと、高齢者ばかりになっている、あじさいロードの草刈りを中学生に手伝ってもらったこともある。もう少しこのような繋がりを増やすことが出来ればと思う。

●会長

少し前までは、学校と繋がりを持ちたい団体があってもどうすればいいのか分からないこともあったが、地域コーディネーターの方がそれらを繋ぐ役割を担ってくれて徐々に変わりつつある。

ただ、情報伝達がうまくいってなく、まだやりたいと思っている人がいるが現場では人が足りないことがある。

こういったことがあるので広報戦略に関しては、この中に入れてもいいかもしれない。

●委員

政策については現状のままでいいと思う。だが、これからどうしていくかという部分を今後しっかり話をしていけたらと思う。

●委員

繋ぐことが大事とは分かるが、どこどこを繋ぎ、どういった方向性で行くかは余り示されていないと感じる。

今の世の中は、下手に声掛けをすると問題になるから何も始まらないことがある気がする。

声掛けなどの不審者情報が入ってくるが、このままだと誰も声を掛けなくなることもある気がする。何にしても一長一短あり、住みにくいまちにだんだんなっている気がする。その辺の方向性も変わってきているのは実感する。

●会長

信用できるところに繋ぐことが出来る仕組みや要素を、具体的な政策の中に盛り込んでいくことはできるのかもしれない。

いろいろ今お話していただいた中で「継続する」「課題がある」というところは、皆さんの意思や方向性は同じ意見だった気がする。

今回出た意見をまとめて、次回の会議のときにお話できればいいかなと思っている。

最後に、生涯学習の中の19ページ。施策の方向性というところで、『「ひと」に学び「ひと」を育てる』という表現になっているが、具体的施策の中で、(ア)学校の教育力の向上(イ)家庭の教育力の向上とある。ここに(ウ)として「地域の教育力の向上」というものを入れるといいと思う。私たちがやっているのは地域として、いろんな活動をしているわけなので、ここに「地域の教育力の向上」を追加すると、学校と地域と家庭というコミュニティ・スクールの繋がりや輪をそのまま表現したことにもなると思う。

もう一点。20ページの『福津の「もの」をつなぎ、学びの仕組みを作る』というところの推進方策②の「福津の施設を有効に利用し、効率の良い学びの場を形成する」というところで、これは私たちに関係するところだが、公共施設の活用という点。今、公共施設が具体的に何かをあまり示してはいないが、中央公民館や自治公民館や郷づくりの拠点、コミュニティセンターなどが公共施設の中に全部含まれている。この中に新たに、図書館の方を活用するという方向性を、図書館から話が出ている。

教育総合計画の「豊かな心の育成」という点に、読書や図書をもっと活用とある。また、大学入試はAO入試の比率が増えてきていて、いわゆるペーパーテストにプラス小論文など、自分で「読み込む」と「読み取る」というところで、読書は大きいと思う。

なおかつ、自分のさまざまな体験を落とし込んで、一つの小論文を書くところが大学入試の2次試験などでかなり採用されている。普段から本を読んでいないと読み取る力は中々身につかない。

●副会長

知識だけを問う問題が以前多かったが、今は、こういった状況で、こうなっていて、どのような計算をしたらいいか問われている。

そうすると、何が問われているかを読み解く必要がある。
文科省から今までのようなペーパーテストで取るだけの入試では駄目と言われている。だから、論述する記述とか、コミュニケーションとか、そういう多様な方法ではかる入試をせよと言われているので、問題文の文章量も増えている。だから、そういう意味で読解力の向上というのはどんどん必要性が高まっている。

そういった時代の変化があるから目的思考で考えないと、何をすることが思い浮かばない。そこがやはり大事。

例えば、建築振興基本計画が持続可能な社会の作り手の育成と日本社会に根差したウェルビーイングの向上という二つの視点があるが、それは福津市の皆さんでいうと、どんな姿ですかというイメージをしなければいけない。それに照らして、これはできている、これができてないとか、それをやるために、こんな施策をこんなふうに運用しましょう、動かしましょうとなっていくので、やっぱりその目的がいる。

例えば予測不可能なこれまでにない規模の災害も起こる。そう考えると、大規模な災害のときには、こんなふうに助け合える市民でありたい、そうなるためには、一時避難場所は自治公民館が拠点となるような動きが取れるように、平常時に生涯学習を通じて、こんな関係性を子どもと大人で作っておきましょうとなれば、公民館に集まって大人と子どもでこんなことを学ぶ意味があるとなっていく。こういうふうに考えていかないと考えた人は分かるけど、市民に伝わらないと思う。

●会長

大人との会話とかで子どもたちのコミュニケーションスキルが上がってくるところはあると思う。でも、接点がなく、話すこともない。昔は地域の人たちが話し掛けてきて大人との会話もあったが、徐々に状況が変化し、そういったことは少なくなっている。だからこそ、新たに信頼のおける、仕組みとか組織とか場所とかを提示することで、大人も子どももみんな話ができ遊ぶことができる。

体験したことを自分に置き換えて落とし込んで意見を言うということがすごく求められている時代なので、福津市が目指そうとしているところは間違っているとは思っていないが、若干バラバラなところがあるのと、それを少しでも生涯学習の推進計画をもととして、その政策を明文化して情報が共有できるようにして、プラス広報戦略もしっかり考えて、市民の皆さんが何か楽しく明るく関わられるように学校や地域をしていけるといいと思う。

●副会長

さっき大学入試が変わっているとあったが、大学入試だけがゴールではない。その後も働いていく上で、どんな力が今から必要かのデータは、例えば経団連が出している大卒者に特に期待する資質能力知識は何ですかというアンケートがある。

これによると、特に期待する資質はトップが主体性。それから特に期待する能力は課題設定、課題解決能力。そして特に期待する知識は、文系理系の枠を超えた知識教養。

だから個別の深掘りした専門の知識を教え込んだ大学も変わらないといけない。

子ども主体の学びとは、以前は課題設定を先生が行い、子どもが解決するようにコツを教えていた。今は子どもが解決したい課題を決めて、その解決をどうやったら解決するかを子どもが気付くこと。だから、そういうふうに学校が変わっていったら、地域である体験活動も、子どもにどんな活動したらいいかなというところを考えさせる必要がある。そして、そのやり方を気付かせて伸びたところをちゃんと褒めてあげると主体性が上がっていく。

この経団連の求めている能力は、学校だけでは無理だから、社会教育と学校教育の連携を図る必要がある。だから、これをしますになる。こういったことが、これから計画の中身を考えるときに、大事になると思う。

●会長

今回、出していただいた意見をしっかりとまとめて、今後の方向性を次回共有出来ればと思う。

○次回開催日について

3月21日（木）18時30分